

2章  
中央通りの  
デザイン

## 2-1 共通のデザイン方針

### 方針1

#### 空間の使い方

—— 空間に取り入れる機能



将来イメージ

#### 目標1

#### 居心地が良く歩きたくなる空間づくり

- まちなかの回遊を支える歩行空間
- 自転車走行空間の分離
- まちなかへの来訪者や居住者のための快適空間（待合・休憩、公園、カフェや屋台等）
- 自動車と歩行者の分離
- 交通の障害を防止する荷捌き機能

#### 目標2

#### 市域・他都市とつながる一大交通拠点づくり

- 将来交通を見込んだ駅前広場の整備（待合・交流機能、送迎スペース）
- デジタル化による利便性の高い交通結節機能
- バスターミナル機能（特定車両停留施設、バス待ち施設等）
- 情報発信機能（まちなかの案内、四日市市のPR、災害情報等）
- 四日市港へのエントランス機能

#### 目標3

#### 最先端の取り組みのショーケースとなる空間づくり

- 次世代モビリティの導入空間
- スマートシティ機能を支える情報基盤の受け皿
- 多機能空間としての利用（グリーンインフラ、環境先進技術、防災機能等）
- ポストコロナで求められるオープンでゆとりある空間

### 方針2

#### 空間の要素と配置

—— 空間を構成する要素と施設配置（レイアウト）の考え方



将来イメージ

#### 歩行者を中心とした交通施設の配置

- 歩行者優先の交通モードの配置  
歩行者 > 自転車 > 公共交通（鉄道・バス・タクシー） > 一般車
- 歩行者空間の最大化（交通量に応じた車両走行空間の適正化）
- バリアフリー化され、乗り継ぎや移動がしやすいデッキ等の配置
- 歩行者目線で分かりやすい動線の設定（サイン計画等）
- 安全な通行を支える交通安全施設（歩車分離、信号等）

#### 人が集い、賑わいを生み出す施設の配置

- 居心地の良いオープンスペース（ベンチ、テーブル、東屋、木陰等）
- 周辺施設やまちなかの市民活動と連携した使い方ができる空間の配置（オープンカフェ、祭り等）
- 都市で働き暮らす人のためのスペース（緑地、遊具等）

#### 緑あふれる施設配置

- 都市環境に潤いを与える緑の拡大
- クスノキ並木を活かした連続した緑の配置
- 緑が持つ多様な機能の活用（グリーンインフラの充実）

### 方針3

#### 空間の質

—— グレードや設え、重視するデザインのポイント



将来イメージ

#### 市民の誇りとなる高質な空間の設え

- 四日市市の顔・玄関口に相応しい、シビックプライドを育む高質なグレード

#### 歴史や緑を活かした空間の設え

- 四日市市の名前の由来となった「市（いち）」や、「東海道」の賑わいを感じる設え
- 四日市市の発展を支えてきた「みなと」とのつながりを感じる設え
- 芝生・樹木・花・土・水といった「様々な緑」を取り込んだ設え
- 景観の連続性へ配慮した設え

#### 使いやすく可変性を持った空間の設え

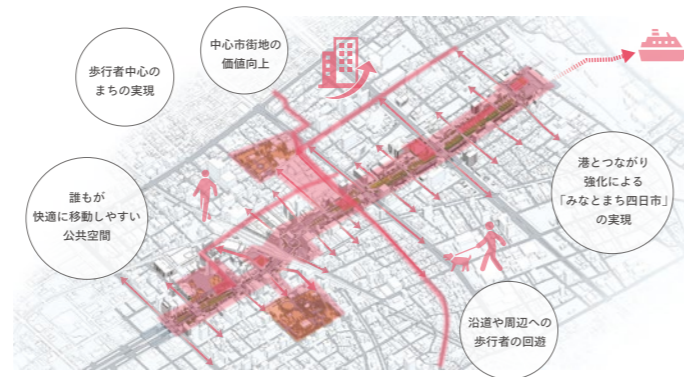
- 誰もが使いやすいユニバーサルな設え
- 「多様な使い方」や「使い方の変化への対応」を可能とする可変性を持った設え

## 2-1-1. 空間の使い方

### 目標1

#### 居心地が良く 歩きたくなる空間づくり

- まちなかの回遊を支える歩行空間
- 自転車走行空間の分離
- まちなかへの来訪者や居住者のための快適空間  
(待合・休憩、公園、カフェや屋台等)
- 自動車と歩行者の分離
- 交通の阻害を防止する荷捌き機能

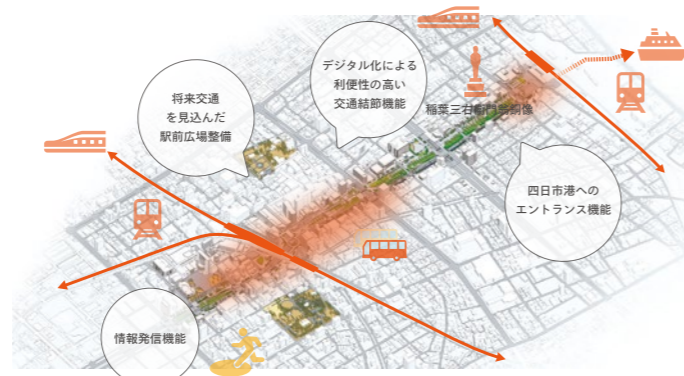


賑わいを感じるストリートの事例 (La Rambla, Barcelona, Spain)

### 目標2

#### 市域・他都市とつながる 一大交通拠点づくり

- 将来交通を見込んだ駅前広場の整備  
(待合・交流機能、送迎スペース)
- デジタル化による利便性の高い交通結節機能
- バスターミナル機能  
(特定車両停留施設、バス待ち施設等)
- 情報発信機能  
(まちなかの案内、四日市市のPR、災害情報等)
- 四日市港へのエントランス機能

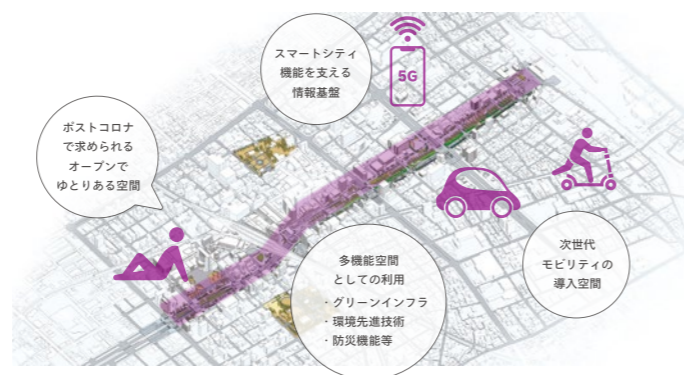


交通結節点となる駅前の事例 (岐阜市, 日本)

### 目標3

#### 最先端の取り組みの ショーケースとなる空間づくり

- 次世代モビリティの導入空間
- スマートシティ機能を支える情報基盤の受け皿
- 多機能空間としての利用  
(グリーンインフラ、環境先進技術、防災機能等)
- ポストコロナで求められるオープンでゆとりある空間



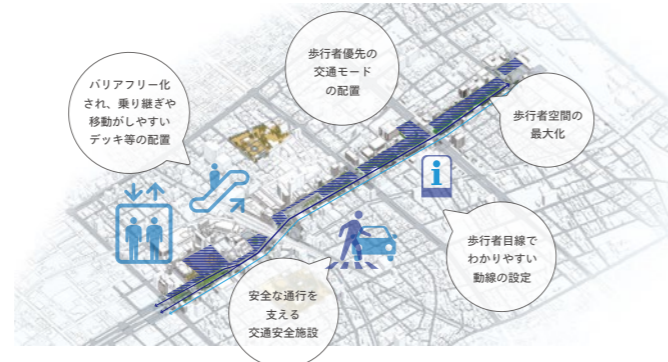
中央通りで実証実験を行った自動運転車両：アルマ (仏ナビヤ社)

## 2-1-II. 空間の要素と配置

### 目標1

#### 歩行者を中心とした交通施設の配置

- 歩行者優先の交通モードの配置  
歩行者 > 自転車 > 公共交通(鉄道・バス・タクシー)  
> 一般車
- 歩行者空間の最大化  
(交通量に応じた車両走行空間の適正化)
- バリアフリー化され、乗り継ぎや移動がしやすいデッキ等の配置
- 歩行者目線で分かりやすい動線の設定  
(サイン計画等)
- 安全な通行を支える交通安全施設  
(歩車分離、信号等)



歩行者空間を優先した道路の事例 (Maastricht, Netherlands)

### 目標2

#### 人が集い、賑わいを生み出す施設の配置

- 居心地の良いオープンスペース  
(ベンチ、テーブル、東屋、木陰等)
- 周辺施設やまちなかの市民活動と連携した使い方ができる空間の配置  
(オープンカフェ、祭り等)
- 都市で働き暮らす人のためのスペース  
(緑地、遊具等)

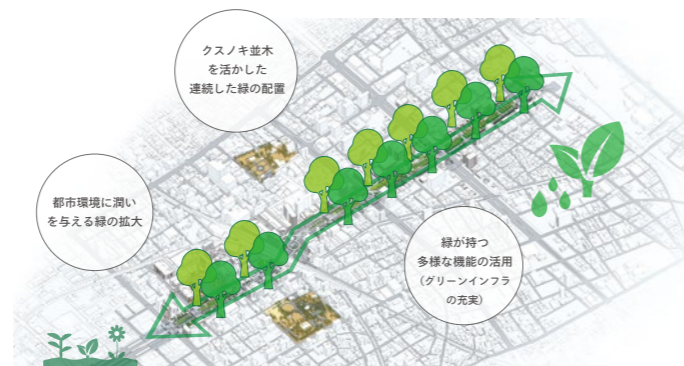


居心地の良いオープンスペースの事例 (姫路市, 日本)

### 目標3

#### 緑あふれる施設配置

- 都市環境に潤いを与える緑の拡大
- クスノキ並木を活かした連続した緑の配置
- 緑を持つ多様な機能の活用  
(グリーンインフラの充実)



緑あふれる空間の事例 (Lille, France)



グリーンインフラの事例 (Lille, France)

## 2-1-III. 空間の質

### 目標1

#### 市民の誇りとなる 高質な空間の設え

- 四日市市の顔・玄関口に相応しい、シビックプライドを育む高質なグレード



まちの顔として賑わうふれあいモール



高質なグレードの歩行者空間のイメージ

### 目標2

#### 歴史や緑を活かした空間の設え

- 四日市市の名前の由来となった「市（いち）」や、「東海道」の賑わいを感じる設え
- 四日市市の発展を支えてきた「みなと」とのつながりを感じる設え
- 芝生・樹木・花・土・水といった「様々な緑」を取り込んだ設え
- 景観の連続性へ配慮した設え



都市景観形成の軸となる緑豊かな中央通り



歴史と文化をつなぐ大四日市まつり



東海道五十三次

### 目標3

#### 使いやすく可変性を持った 空間の設え

- 誰もが使いやすいユニバーサルな設え
- 「多様な使い方」や「使い方の変化への対応」を可能とする可変性を持った設え



使い方の変化に対応できるテーブル・チェアの事例  
(賑わい創出社会実験“はじまりのいち”、四日市市)



四日市 JAZZFESTIVAL  
(賑わい創出社会実験“はじまりのいち”、四日市市)



四日市市での防災訓練